

科学研究費助成事業（基盤研究（S））公表用資料
〔平成29年度研究進捗評価用〕

平成26年度採択分
平成29年3月14日現在

マルチアーカイヴァル的手法による在外日本関係史料の調査
と研究資源化の研究

Researching the collection and utilization of overseas
Japan-related sources through multi-archival methods

課題番号：26220402

保谷 徹 (HOYA TORU)

東京大学・史料編纂所・教授



研究の概要

東京大学史料編纂所が所蔵する在外日本関係史料マイクロフィルム150万コマ（約20か国70機関以上）をデジタル化し、国内探訪史料や主要な編纂外交史料を搭載して、検索・閲覧可能なデジタルアーカイブズを構築する。海外での補充調査の実施など、9つの重点研究プロジェクトを設け、マルチリンガル・マルチアーカイヴァルな日本史研究を推進する。

研究分野：日本史

キーワード：海外史料、歴史情報学、デジタルアーカイブズ、研究資源化

1. 研究開始当初の背景

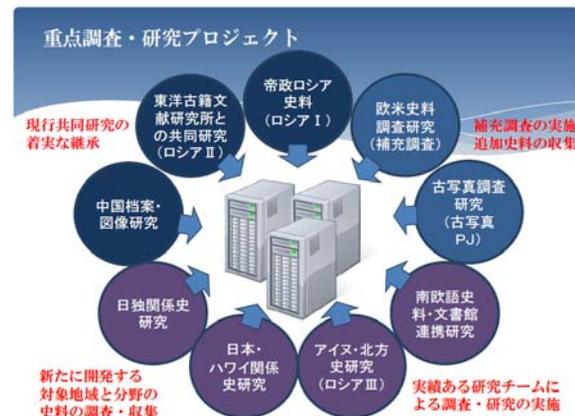
東京大学史料編纂所では、1930年代から在外日本関係史料の調査・収集を開始し、戦後は日本学士院の委嘱により、国際学士院連合等の支援を得て、マイクロフィルムによる収集をはかってきた（世界20か国・70機関以上から約150万コマ）。また近年は、先行した研究において中国・ロシアに所在する日本関係史料の調査・研究を推進し、国内探訪史料を中心とするデジタルアーカイブ化をおこなってきた（約500万コマ）。

2. 研究の目的

本研究では、この在外日本関係史料マイクロフィルム150万コマをデジタル化し、国内探訪史料や主要な編纂外交史料集を搭載したデジタルアーカイブズを構築する。この際、史料のデジタル画像に目録データを付与し、検索・閲覧可能なデータベースとして研究資源化をはかり、ひろく市民・研究者へ公開する。また、9つの重点研究プロジェクトを設けて海外での補充調査を実施し、マルチリンガル、マルチアーカイヴァルな手法による世界史的視座からの日本と日本史研究の進展をはかるものとした。

3. 研究の方法

デジタルアーカイブズ構築班による目録データ付与作業を実施し、多言語への対応、最適化研究を進める。9つの重点プロジェクトチームによる在外日本関係史料の調査・研究を遂行する。海外諸機関との共同研究を進め、国際研究集会を開催して成果を発信する。



4. これまでの成果

1) デジタルアーカイブズ構築については、2017年3月末現在、海外史料マイクロフィルム2739本分すべてをアップロードし、このうち1814本（約107万コマ、約71%）について簡易目録による登録が完了し、すでに東京大学史料編纂所のHi-CAT Plusで公開利用に供している（閲覧室端末からの公開）。また、イギリス国立文書館所蔵英国外務省対日一般外交文書(FO46)、ポルトガル国立公文書館所蔵「モンズーン文書」およびオランダ語史料の一部等について重点的に詳細目録を付与している。FO46の追加分や外務省外交史料館が所蔵する「正統通信全覧」や「外交公文」、前述の「モンズーン文書」、ハワイ州立文書館所蔵ハワイ政府文書、中国第一歴史档案馆所蔵日本関係文書など、本研究で新規に撮影・収集した史料画像約37万コマをサーバへ追加し、Hi-CAT Plusでの公開利用を開始した。今後さらに収集済のドイツ、ロ

シア所在日本関係史料約 12 万コマ以上の登録作業が予定され、トータルで 200 万コマの史料画像データが追加される見込みである。

2) 重点研究プロジェクトでは、①ロシア国立歴史文書館、同海軍文書館との研究協力協定を更新し、計 3 回の「日露関係史料をめぐる国際研究集会」を開催した。18 世紀以来の貴重な海図類を含め、両館が所蔵する帝政ロシア政府史料のデジタル画像収集をおこなった。海軍文書館所蔵日本関係史料解説目録（追加分）を作成し、翻訳作業を完了した（2017 年度刊行予定）。歴史文書館については、東アジア関係史料の目録化を進めている（ロシア I 班）。ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所が所蔵する日本人商人とサハリナイヌとの交易帳簿の翻刻・ロシア語翻訳の作業がほぼ完了し、刊行に向けて最終段階に入っている。アイヌとの交易帳簿では最古の史料（1805～6 年）であり、サハリン（樺太）では唯一の史料である（ロシア II 班）。北海道大学谷本晃久准教授のチームでは、ロシアにおけるアジア博物館・露米会社旧蔵書や樺太旧蔵書のコレクション形成史に取り組んでいる。この成果の一端は、同大学のアイヌ・先住民研究センターと共催の国際研究集会（2016 年 7 月）で発表され、注目を集めた（ロシア III 班）。

②東京大学史料編纂所の古写真研究プロジェクト（保谷代表）と連携し、日本・スイス修好 150 年記念展示「日本を想う」開催（ヌーシャテル市、2014 年 7 月～翌年 4 月）や展示図録刊行に参加・協力した（引き続き写真図録刊行予定）。また、フランス（ナダールの肖像写真群）、オーストリア（写真家ブルガー&モーザー・コレクション）等における湿板写真ガラス原板の調査・収集（高精細デジタル撮影）と解析を進め、その成果を順次発表した。社会的注目も高い（古写真班）。

③中国国家博物館との倭寇図像をめぐる国際共同研究の成果が、チームリーダー須田牧子助教（東京大学史料編纂所）によって、図録『描かれた倭寇「倭寇図巻」と「抗倭図巻」』と論集『「倭寇図巻」「抗倭図巻」をよむ』にまとめられた。ともに高い学術的評価をいただき、社会的な反響も大きかった。2015 年 4 月には、中国国家博物館副館長を招き、「倭寇と倭寇図像をめぐる国際研究集会」を開催している。中国第一歴史档案館等で調査研究をおこなった、特任研究員彭浩氏の著作が第 85 回日経・経済図書文化賞を受賞している（中国班）。

④東京大学大学院法政学政治学研究科五百旗頭薫教授のチームにより、ドイツ連邦文書館（ベルリン市）、同軍事文書館（フライブルク市）等での史料調査の実施と複製収集をおこない、収集史料約 8 万コマ分の Hi-CAT Plus への搭載をはかっている（ドイツ班）。

⑤国立歴史民俗博物館原山浩介准教授のチームにより、日本・ハワイ関係史やハ

ワイ移民史の欠落を埋めるべく、ハワイ王国政府の公文書や大学アーカイヴズ、個人史料の調査・研究を進めている。ハワイ州立文書館が所蔵するハワイ政府外務省文書や内務省移民関係史料約 7000 点をデジタル撮影で収集した（ハワイ班）。

⑥東京大学史料編纂所岡美穂子准教授のチームにより、ポルトガル国立公文書館と協定を締結し、インド副王政府下で管理された行政文書群であるモンスーン文書計 5.6 万コマのデジタル撮影データを収集した。さらに 1640 年のマカオ使節 61 名が処刑された事件報告書を含むポルトガル国立考古学博物館所蔵史料約 2000 コマのデジタル撮影データ等を新たに入手した。成果発表はまもなくである（南欧班）。

以上、各プロジェクトの研究は、すでに多彩な研究成果を生み出すとともに、これまで手薄だった各国・各地域での着実な史料収集と研究の成果をあげている。

5. 今後の計画

引き続き研究を続行し、海外史料等 200 万コマ弱を追加したデジタルアーカイヴズの完成と公開を目指す。この研究基盤の上に、世界史的視座からの日本史研究の成果を発表していく。

6. これまでの発表論文等（受賞等も含む）
横山伊徳「オランダ総領事デ・ウィット月例報告 1860 年—63 年（1）」、『東京大学史料編纂所研究紀要』27 巻、47-67 頁、2017 年
山田太造「東京大学史料編纂所の編纂とその事業にともなうデータベース」国立歴史民俗博物館編『〈総合資料学〉の挑戦—異分野融合研究の最前線—』98-113 頁、吉川弘文館、2017 年

須田牧子編『「倭寇図巻」「抗倭図巻」をよむ』、勉誠出版、全 528 頁、2016 年

岡美穂子編著『南蛮貿易とカステラ』株式会社福砂屋、総頁数 165 頁、2016 年

保谷 徹「在外日本関係史料の調査・収集と研究資源化の研究—日本学士院 UAI 関係事業との関わりで—」第 5 回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議予稿集、2016 年

彭 浩『近世日清通商関係史』、東京大学出版会、全 309 頁、2015 年（第 85 回日経・経済図書文化賞受賞）

保谷 徹「開国と幕末の幕制改革」岩波講座『日本歴史』14、近世 5、37-72 頁、岩波書店、2015 年

東京大学史料編纂所編（須田牧子責任執筆）『描かれた倭寇「倭寇図巻」と「抗倭図巻」』、吉川弘文館、全 112 頁、2014 年

保谷 徹『山口県史』七、第四部海外史料（共編著：解題・解説・史料翻訳）、865-1026 頁、2014 年、ほか多数。

ホームページ等

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>